資料１０

2019 年度「健康と安全・安心な暮らし」に関する市民アンケート調査

調査結果報告書　＜概要＞

Ⅰ　調査概要

1. 調査目的

府中市では、「第 2 次健康ふちゅう 21（第 2 次府中市保健計画）」を策定しており、計画を効果的に推進するためには、定期的な評価による実態調査が求められている。そこで、2015 年度に同様の形式で行った郵送調査方法で、健康関連指標、社会行動（地域の繋がり）、住環境等に関する調査を行い、文化センター圏域別に、地域住民の健康度および健康施策ニーズの把握及び比較を行い、健康施策の評価・策定の資料とすることを目的とする。

2. 調査対象

市内に住民登録のある 18 歳以上の男女

3. 抽出方法

・無作為抽出（除外要件：要介護認定 4 以上の方、外国籍の方）
・抽出及び対象要件基準日：令和元年 7 月 1 日
（調査結果における年齢区分は令和元年 7 月 1 日時点のものとする）

4. 調査方法

郵送配布・郵送回収（督促礼状 1 回）

5. 調査期間

令和元年 9 月 2 日～9 月 20 日
（追加発送による回答期日延長：12 月 1 日まで）

6. 回収率

・配布者数　21,300 人（うち前回回答者数：3,842 人）
・有効回答者数　9,201 人（回収率 43.2%）

7. 報告書の見方

各調査結果に関しては、欠損値・不規則回答を除いた有効回答数から算出しているため、各調査項目の集計回答数は異なる（有効回答数は各結果に記載）。

Ⅱ　調査結果の概要

本調査では若年者の有効回答数が少ないことを想定し、予め調査票配布数を調整していたため、有効回答に占める各世代の回答率には著しい違いは認められず（若年者：28%、中年者：34%、高齢者：38%）、各世代から 2,500 件を超える有効回答を得た。

世代間の調査結果の比較においては、ほとんどの調査項目において世代間で差が認められ、各世代の特徴が示された。若年者では、主観的な健康感は高いが、精神的健康度や健診受診率が低く、運動習慣がない者が多かった。中年者では、若年者と高齢者の中間層である特徴が示されたが、特異的に健診受診率が高いものの、定期的な飲酒率、喫煙率が高く、また、社会的孤立者が多い特徴も示された。高齢者では、主観的な健康感は低いものの、精神的健康度は良好な者が多く、運動習慣を有する者の割合や朝食摂取頻度が高く、社会的孤立者が少ない特徴が示された。

災害関係情報の入手手段では、若年者はテレビよりインターネットを介して情報を取得する傾向があり、中年者においてもインターネットを介して情報を取得する者の割合はテレビと同程度であった。高齢者は、SNS を使用できる機器の所有率が 6 割を超えているものの、インターネットを介して災害関係情報を取得すると回答した者は 3 割程度であった。

元気いっぱいサポーターに関しては、年齢が高くなるにつれて、認知度が高くなる傾向が認められたが、内容まで知っていると回答した者は、高齢者であっても 1 割程度であった。

各調査項目を文化センター圏域別に比較したが、全体を通して共通した傾向は認められず、明確な地域差は示されなかった。しかし、個々の調査項目に関しては、軽微な地域差が認められるため、今後は、地域資源割合等との関連性を検討し、健康施策の指針資料とする必要があると考えられる。